

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、幼稚園及び学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とする。

## 2 調査の範囲・対象

- (1) 調査の範囲は、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校(以下「調査実施校」という。)とする。
- (2) 調査の対象は、調査実施校に在籍する、5歳から17歳(平成26年4月1日現在の満年齢)までの幼児、児童及び生徒(以下「調査実施校在籍者」という。)である。
- (3) 本調査においては、以下のとおり、掲載項目ごとに調査対象者が異なる。
  - ① 発育状態(2～8頁)：調査実施校在籍者のうち年齢別男女別に抽出された者
  - ② 健康状態(9～14頁)：調査実施校在籍者全員
  - ③ 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率(15、16頁)：①に同じ

調査対象者数(福島県)

	県内の学校(園)数 (校、園)	調査実施校数 (校)	県内学校(園)の在籍者数-A (人)	発育状態調査 B (人)	抽出率 B/A (%)	健康状態調査 C (人)	抽出率 C/A (%)
幼稚園	342	37	9,799	1,210	12.3	1,810	18.5
小学校	477	60	98,037	5,420	5.5	22,724	23.2
中学校	238	40	56,140	4,403	7.8	15,839	28.2
高等学校	111	31	54,952	2,779	5.1	22,312	40.6
計	1,168	168	218,928	13,812	6.3	62,685	28.6

(注) 1 県内幼稚園の在籍者数は、5歳児のみの人数である。

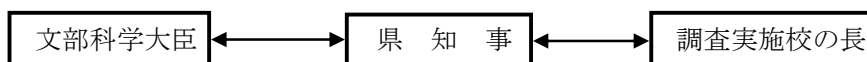
2 発育状態調査は、調査実施校在籍者のうち年齢別男女別に抽出された者を対象とし、健康状態調査は、調査実施校在籍者全員である。

## 3 調査事項

- (1) 発育状態調査(身長、体重、座高)
- (2) 健康状態調査(栄養状態、せき柱・胸郭の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、結核に関する検診の結果、心臓の疾病・異常の有無、尿、寄生虫卵の有無、その他の疾病・異常の有無)

## 4 調査の方法

- (1) 本調査は、平成26年4月1日から6月30日の間に実施された学校保健安全法による健康診断の結果に基づき調査した。
- (2) 調査系統は、次のとおりである。



## II 調査結果の概要

### 第1 発育状態

身長、体重及び座高の本県平均値と全国平均値を年齢別にみると、表1から表3のとおりである。

#### 1 身長

男子の身長は、11歳から13歳、15歳及び17歳の各年齢で前年度より伸びており、11歳(146.3cm)は過去最高となっている。

女子は、7歳、9歳、11歳、13歳及び15歳から17歳の各年齢で前年度より伸びている。また、10歳及び11歳では、女子が男子を上回っている。

全国との比較でみると、男子は5歳、6歳、8歳から13歳、15歳及び16歳の各年齢で、女子は7歳、9歳及び11歳から13歳の各年齢で、全国平均を上回っている。(表1)

表1 年齢別 身長の平均値

(単位：cm)

区 分	本 県						全 国		本県と全国との差		
	男			女			男	女	男	女	
	H26 (A)	H25 (B)	前年差 (A-B)	H26 (C)	H25 (D)	前年差 (C-D)	H26 (E)	H26 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	110.6	110.7	△ 0.1	109.4	109.8	△ 0.4	110.3	109.5	0.3	△ 0.1
	6歳	116.6	116.9	△ 0.3	115.5	115.7	△ 0.2	116.5	115.5	0.1	0.0
小学校	7歳	122.2	122.4	△ 0.2	121.7	121.6	0.1	122.4	121.5	△ 0.2	0.2
	8歳	128.6	128.7	△ 0.1	127.4	127.7	△ 0.3	128.0	127.4	0.6	0.0
	9歳	134.1	134.2	△ 0.1	133.7	133.3	0.4	133.6	133.4	0.5	0.3
	10歳	139.3	139.5	△ 0.2	140.0	141.1	△ 1.1	138.9	140.1	0.4	△ 0.1
	11歳	<u>146.3</u>	145.5	0.8	147.6	147.4	0.2	145.1	146.8	1.2	0.8
中学校	12歳	153.3	153.1	0.2	152.0	152.1	△ 0.1	152.5	151.8	0.8	0.2
	13歳	160.1	159.7	0.4	154.9	154.2	0.7	159.7	154.8	0.4	0.1
	14歳	165.1	165.2	△ 0.1	156.0	156.1	△ 0.1	165.1	156.4	0.0	△ 0.4
高等学校	15歳	168.5	167.9	0.6	156.7	156.4	0.3	168.3	157.0	0.2	△ 0.3
	16歳	169.9	170.2	△ 0.3	157.1	157.0	0.1	169.8	157.6	0.1	△ 0.5
	17歳	170.3	169.6	0.7	157.9	157.2	0.7	170.7	157.9	△ 0.4	0.0

(注) 下線の部分は調査実施以来最高値を示す。

#### 2 体重

男子の体重は、11歳のみが前年度より増えている。

女子は、6歳、7歳、9歳、11歳及び13歳の各年齢で前年度より増えている。

全国との比較でみると、男子は17歳を除く各年齢で、女子はすべての年齢において全国平均を上回っている。(表2)

表2 年齢別 体重の平均値

(単位: kg)

区 分	本県						全国		本県と全国との差		
	男			女			男	女	男	女	
	H26 (A)	H25 (B)	前年差 (A-B)	H26 (C)	H25 (D)	前年差 (C-D)	H26 (E)	H26 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	19.3	19.4	△ 0.1	18.9	19.0	△ 0.1	18.9	18.5	0.4	0.4
	6歳	21.9	22.0	△ 0.1	21.3	21.2	0.1	21.3	20.8	0.6	0.5
小学校	7歳	24.5	24.7	△ 0.2	24.3	23.9	0.4	24.0	23.4	0.5	0.9
	8歳	28.0	28.6	△ 0.6	27.0	27.1	△ 0.1	27.0	26.4	1.0	0.6
	9歳	32.0	32.1	△ 0.1	31.2	30.2	1.0	30.4	29.8	1.6	1.4
	10歳	35.5	36.2	△ 0.7	34.1	35.7	△ 1.6	34.0	34.0	1.5	0.1
	11歳	40.3	39.7	0.6	40.6	40.1	0.5	38.4	39.0	1.9	1.6
中学校	12歳	46.0	46.0	0.0	45.2	45.3	△ 0.1	44.0	43.6	2.0	1.6
	13歳	50.8	50.8	0.0	48.9	48.0	0.9	48.8	47.2	2.0	1.7
	14歳	55.0	55.6	△ 0.6	50.6	51.0	△ 0.4	53.9	50.0	1.1	0.6
高等学校	15歳	60.9	61.7	△ 0.8	51.6	53.2	△ 1.6	58.9	51.4	2.0	0.2
	16歳	61.8	62.5	△ 0.7	53.3	54.3	△ 1.0	60.7	52.4	1.1	0.9
	17歳	62.5	62.5	0.0	54.1	<u>55.3</u>	△ 1.2	62.6	52.9	△ 0.1	1.2

(注) 下線の部分は調査実施以来最高値を示す。

## 3 座高

男子の座高は、5歳、11歳、13歳、15歳及び17歳の各年齢で前年度より伸びており、15歳(90.8cm)は過去最高となっている。

女子は、5歳、9歳、13歳及び17歳の各年齢で前年度より伸びており、13歳(84.2cm)は過去最高となっている。

また、9歳から12歳では、女子が男子を上回っている。

全国との比較でみると、男子は5歳及び8歳から16歳の各年齢で、女子は5歳、9歳、11歳から14歳及び17歳の各年齢で、全国平均を上回っている。(表3)

表3 年齢別 座高の平均値

(単位: cm)

区 分	本県						全国		本県と全国との差		
	男			女			男	女	男	女	
	H26 (A)	H25 (B)	前年差 (A-B)	H26 (C)	H25 (D)	前年差 (C-D)	H26 (E)	H26 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	62.1	62.0	0.1	61.4	61.2	0.2	61.8	61.3	0.3	0.1
	6歳	64.8	64.9	△ 0.1	64.3	64.5	△ 0.2	64.8	64.4	0.0	△ 0.1
小学校	7歳	67.3	67.5	△ 0.2	67.2	67.3	△ 0.1	67.6	67.2	△ 0.3	0.0
	8歳	70.5	70.6	△ 0.1	69.9	70.1	△ 0.2	70.2	69.9	0.3	0.0
	9歳	72.8	72.9	△ 0.1	72.9	72.4	0.5	72.6	72.6	0.2	0.3
	10歳	75.1	75.4	△ 0.3	75.6	76.3	△ 0.7	74.9	75.8	0.2	△ 0.2
	11歳	78.2	77.9	0.3	79.7	79.8	△ 0.1	77.6	79.3	0.6	0.4
中学校	12歳	81.9	82.1	△ 0.2	82.6	<u>82.8</u>	△ 0.2	81.3	82.1	0.6	0.5
	13歳	85.4	85.3	0.1	<u>84.2</u>	84.0	0.2	84.9	83.8	0.5	0.4
	14歳	88.3	<u>88.7</u>	△ 0.4	85.0	<u>85.2</u>	△ 0.2	88.1	84.9	0.2	0.1
高等学校	15歳	<u>90.8</u>	90.3	0.5	85.4	85.5	△ 0.1	90.4	85.4	0.4	0.0
	16歳	91.5	91.5	0.0	85.4	85.7	△ 0.3	91.4	85.7	0.1	△ 0.3
	17歳	91.7	91.6	0.1	86.0	85.7	0.3	92.0	85.9	△ 0.3	0.1

(注) 下線の部分は調査実施以来最高値を示す。

#### 4 身長、体重及び座高の推移

##### (1) 身長の推移

###### ア 男子

- (ア) 各年齢間の身長差は、10歳と11歳の間(7.0 cm)、11歳と12歳の間(7.0 cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.4 cm)が最も小さい。(表4)
- (イ) 今年度の身長を親の世代(30年前・昭和59年度調査)と比べると、最も差のある年齢は12歳で、親の世代より2.9 cm高い。(表4)
- (ウ) 平成8年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和41年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成8年度生まれが11歳(7.4 cm)、親の世代が12歳(7.3 cm)を示している。  
 なお、現在の17歳は、6歳、8歳、9歳及び11歳の各歳時において、親の世代の発育量を上回っている。(表5)

###### イ 女子

- (ア) 各年齢間の身長差は、10歳と11歳の間(7.6 cm)が最も大きく、15歳と16歳の間(0.4 cm)が最も小さい。(表4)
- (イ) 今年度の身長を親の世代(30年前・昭和59年度調査)と比べると、最も差のある年齢は11歳で、親の世代より2.3 cm高い。(表4)
- (ウ) 平成8年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和41年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成8年度生まれが9歳(6.7 cm)、親の世代が10歳(7.5 cm)を示している。  
 なお、現在の17歳は、6歳、7歳、9歳及び16歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。(表5)

表4 身長の年齢別平均値

(単位：cm)

区分			H26 (A)	年齢間の 身長差	H25 (B)	前年差 (A-B)	S59 親の世代(C)	差 (A-C)
男子	幼稚園	5歳	110.6		110.7	△ 0.1	110.9	△ 0.3
		小学校	6歳	116.6	6.0	116.9	△ 0.3	116.7
	7歳		122.2	5.6	122.4	△ 0.2	121.9	0.3
	8歳		128.6	6.4	128.7	△ 0.1	127.1	1.5
	9歳		134.1	5.5	134.2	△ 0.1	132.7	1.4
	10歳		139.3	5.2	139.5	△ 0.2	137.8	1.5
	11歳		146.3	<u>7.0</u>	145.5	0.8	143.6	2.7
	中学校	12歳	153.3	<u>7.0</u>	153.1	0.2	150.4	2.9
		13歳	160.1	6.8	159.7	0.4	157.6	2.5
		14歳	165.1	5.0	165.2	△ 0.1	163.5	1.6
	高等学校	15歳	168.5	3.4	167.9	0.6	167.4	1.1
		16歳	169.9	1.4	170.2	△ 0.3	169.0	0.9
		17歳	170.3	0.4	169.6	0.7	170.2	0.1
	女子	幼稚園	5歳	109.4		109.8	△ 0.4	110.0
小学校			6歳	115.5	6.1	115.7	△ 0.2	115.6
		7歳	121.7	6.2	121.6	0.1	121.2	0.5
		8歳	127.4	5.7	127.7	△ 0.3	126.9	0.5
		9歳	133.7	6.3	133.3	0.4	132.4	1.3
		10歳	140.0	6.3	141.1	△ 1.1	139.1	0.9
		11歳	147.6	<u>7.6</u>	147.4	0.2	145.3	2.3
中学校		12歳	152.0	4.4	152.1	△ 0.1	150.5	1.5
		13歳	154.9	2.9	154.2	0.7	154.1	0.8
		14歳	156.0	1.1	156.1	△ 0.1	156.1	△ 0.1
高等学校		15歳	156.7	0.7	156.4	0.3	156.5	0.2
		16歳	157.1	0.4	157.0	0.1	157.2	△ 0.1
		17歳	157.9	0.8	157.2	0.7	157.6	0.3

(注) 下線の部分は年齢間の差が最も大きい値を示す。

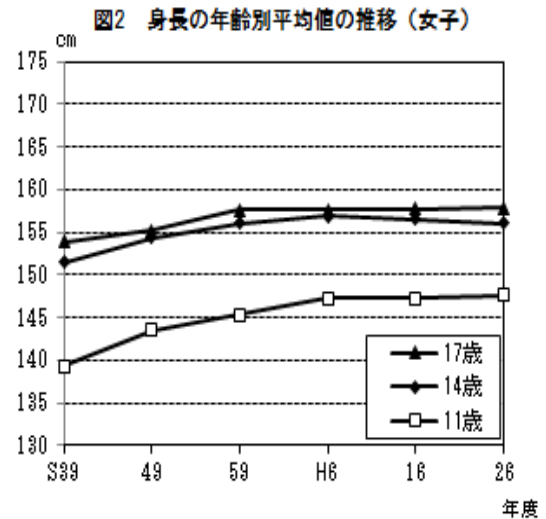
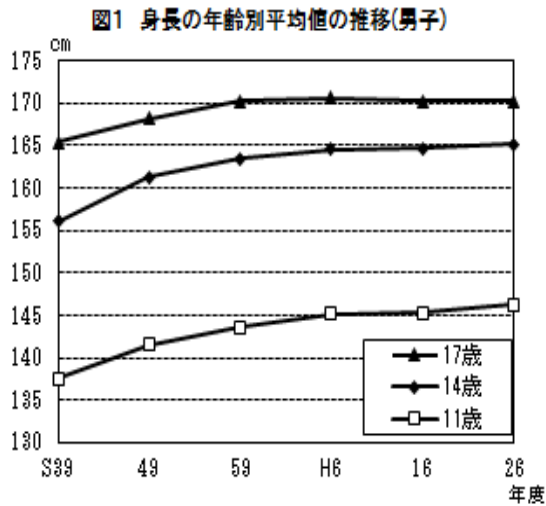
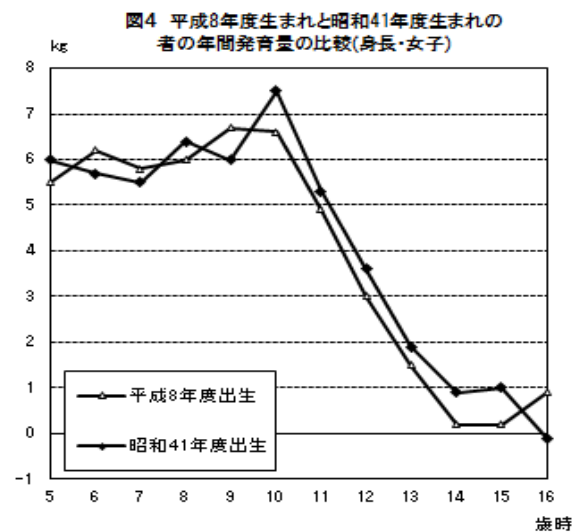
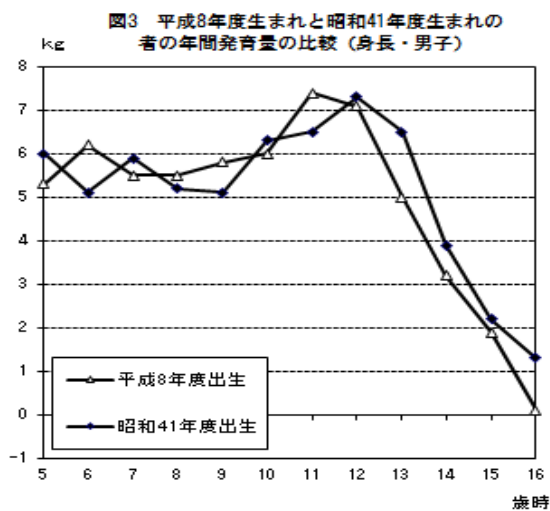


表5 平成8年度生まれと昭和41年度生まれの者の年間発育量の比較(身長)

区分	男 子		女 子		
	平成8年度生まれ (平成26年度17歳)	昭和41年度生まれ (昭和59年度17歳)	平成8年度生まれ (平成26年度17歳)	昭和41年度生まれ (昭和59年度17歳)	
総発育量	59.0	61.3	47.5	49.7	
幼稚園 5歳時	5.3	6.0	5.5	6.0	
小学校	6歳時	6.2	5.1	6.2	5.7
	7歳時	5.5	5.9	5.8	5.5
	8歳時	5.5	5.2	6.0	6.4
	9歳時	5.8	5.1	6.7	6.0
	10歳時	6.0	6.3	6.6	7.5
中学校	11歳時	7.4	6.5	4.9	5.3
	12歳時	7.1	7.3	3.0	3.6
	13歳時	5.0	6.5	1.5	1.9
	14歳時	3.2	3.9	0.2	0.9
高等学校	15歳時	1.9	2.2	0.2	1.0
	16歳時	0.1	1.3	0.9	△ 0.1

(注) 1 年間発育量とは、例えば、平成8年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成15年度調査6歳の数値から平成14年度調査5歳の数値を減じたものである。  
 2 下線の部分は、最大の年間発育量を示す。  
 3 平成8年度生まれの14歳の数値は全国値によるもの(平成23年度調査が東日本大震災により岩手県、宮城県、福島県は実施しなかったため。)



(2) 体重の推移

ア 男子

(ア) 各年齢間の体重差は、14歳と15歳の間(5.9 kg)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.7 kg)では最も小さい。(表6)

(イ) 今年度の体重を親の世代(30年前・昭和59年度調査)と比べると、最も差のある年齢は12歳で、親の世代より3.9 kg重い。(表6)

(ウ) 平成8年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和41年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成8年度生まれが14歳(5.9 kg)、親の世代が13歳(5.8 kg)を示している。

なお、現在の17歳は、6歳から9歳、11歳、12歳、14歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。(表7)

イ 女子

(ア) 各年齢間の体重差は、10歳と11歳の間(6.5 kg)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.8 kg)が最も小さい。(表6)

(イ) 今年度の体重を親の世代(30年前・昭和59年度調査)と比べると、最も差のある年齢は11歳で、親の世代より2.4 kg重い。(表6)

(ウ) 平成8年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和41年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、それぞれの世代で10歳(平成8年度生まれが5.9 kg、親の世代が5.7 kg)を示している。

なお、現在の17歳は、7歳、9歳、10歳及び15歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。(表7)

表6 体重の年齢別平均値

(単位: kg)

区 分			H26 (A)	年齢間の 体重差	H25 (B)	前年差 (A-B)	S59 親の世代(C)	差 (A-C)
男  子	幼稚園	5歳	19.3		19.4	△ 0.1	19.3	0.0
		小学校	6歳	21.9	2.6	22.0	△ 0.1	21.4
	7歳		24.5	2.6	24.7	△ 0.2	23.8	0.7
	8歳		28.0	3.5	28.6	△ 0.6	26.5	1.5
	9歳		32.0	4.0	32.1	△ 0.1	29.7	2.3
	10歳		35.5	3.5	36.2	△ 0.7	33.2	2.3
	11歳		40.3	4.8	39.7	0.6	36.8	3.5
	中学校	12歳	46.0	5.7	46.0	0.0	42.1	3.9
		13歳	50.8	4.8	50.8	0.0	47.8	3.0
		14歳	55.0	4.2	55.6	△ 0.6	52.6	2.4
	高等学校	15歳	60.9	<u>5.9</u>	61.7	△ 0.8	58.3	2.6
		16歳	61.8	0.9	62.5	△ 0.7	59.9	1.9
		17歳	62.5	0.7	62.5	0.0	62.4	0.1
	女  子	幼稚園	5歳	18.9		19.0	△ 0.1	18.8
小学校			6歳	21.3	2.4	21.2	0.1	20.8
		7歳	24.3	3.0	23.9	0.4	23.3	1.0
		8歳	27.0	2.7	27.1	△ 0.1	26.2	0.8
		9歳	31.2	4.2	30.2	1.0	29.7	1.5
		10歳	34.1	2.9	35.7	△ 1.6	33.9	0.2
		11歳	40.6	<u>6.5</u>	40.1	0.5	38.2	2.4
中学校		12歳	45.2	4.6	45.3	△ 0.1	43.0	2.2
		13歳	48.9	3.7	48.0	0.9	47.6	1.3
		14歳	50.6	1.7	51.0	△ 0.4	51.2	△ 0.6
高等学校		15歳	51.6	1.0	53.2	△ 1.6	53.4	△ 1.8
		16歳	53.3	1.7	54.3	△ 1.0	53.9	△ 0.6
		17歳	54.1	0.8	55.3	△ 1.2	54.5	△ 0.4

(注) 下線の部分は年齢間の差が最も大きい値を示す。

図5 体重の年齢別平均値の推移(男子)

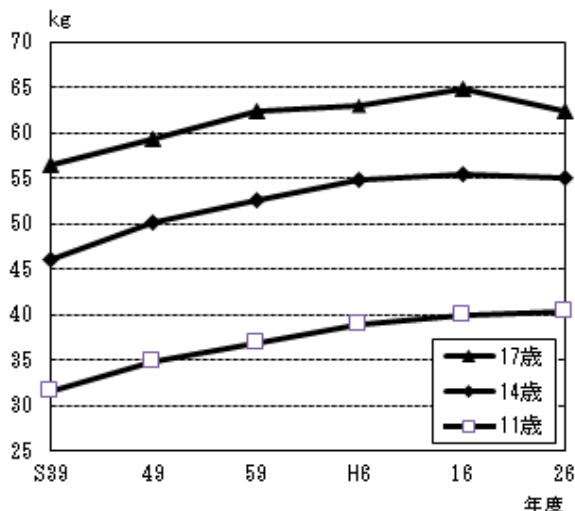


図6 体重の年齢別平均値の推移(女子)

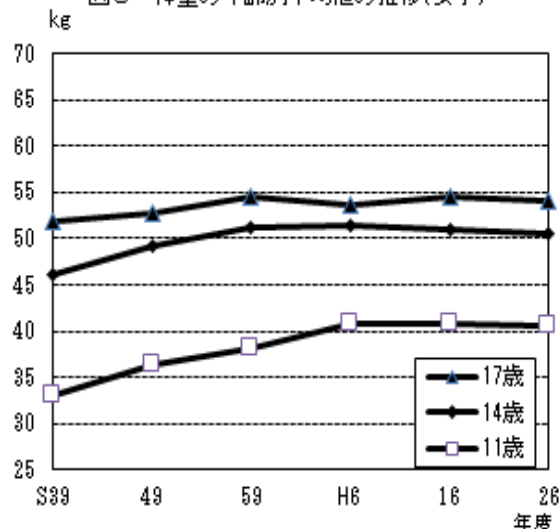


表7 平成8年度生まれと昭和41年度生まれの者の年間発育量の比較(体重) (単位: kg)

区分	男子		女子		
	平成8年度生まれ (平成26年度17歳)	昭和41年度生まれ (昭和59年度17歳)	平成8年度生まれ (平成26年度17歳)	昭和41年度生まれ (昭和59年度17歳)	
総発育量	42.7	44.5	34.8	36.9	
幼稚園 5歳時	2.0	2.5	2.2	2.2	
小学校	6歳時	3.2	2.3	2.5	2.5
	7歳時	3.0	2.7	3.4	2.8
	8歳時	4.0	3.0	3.4	3.6
	9歳時	3.8	2.9	4.3	3.4
	10歳時	3.6	4.8	<u>5.9</u>	<u>5.7</u>
11歳時	5.5	4.5	3.9	4.6	
中学校	12歳時	5.7	5.6	3.8	4.8
	13歳時	3.6	<u>5.8</u>	1.2	3.7
	14歳時	<u>5.9</u>	4.6	2.5	2.5
高等学校	15歳時	2.4	3.6	1.9	0.4
	16歳時	0.0	2.2	△ 0.2	0.7

(注) 1 年間発育量とは、例えば、平成8年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成15年度調査6歳の数値から平成14年度調査5歳の数値を減じたものである。  
 2 下線の部分は、最大の年間発育量を示す。  
 3 平成8年度生まれの14歳の数値は全国値によるもの(平成23年度調査が東日本大震災により岩手県、宮城県、福島県は実施しなかったため。)

図7 平成8年度生まれと昭和41年度生まれの者の年間発育量の比較(体重・男子)

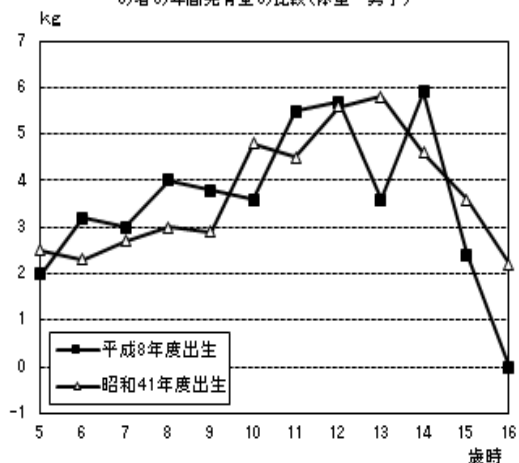
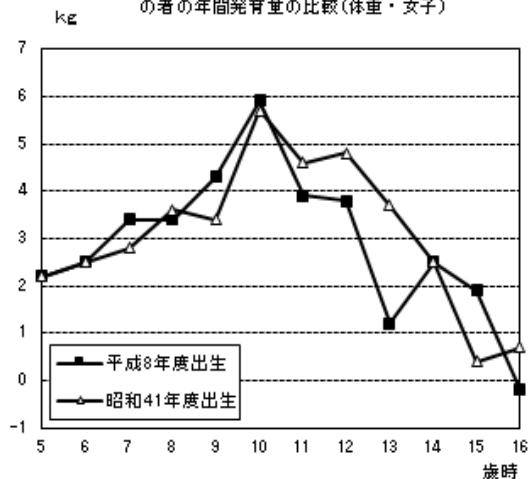


図8 平成8年度生まれと昭和41年度生まれの者の年間発育量の比較(体重・女子)



(3) 座高の推移

ア 男子

- (ア) 各年齢間の座高差は、11歳と12歳の間(3.7cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.2cm)が最も小さい。(表8)
- (イ) 今年度の座高を親の世代(30年前・昭和59年度調査)と比べると、最も差のある年齢は12歳及び13歳で、親の世代よりも1.7cm高い。(表8)

イ 女子

- (ア) 各年齢間の座高差は、10歳と11歳の間(4.1cm)が最も大きく、15歳と16歳の間(0.0cm)が最も小さく差がない。(表8)
- (イ) 今年度の座高を親の世代(30年前・昭和59年度調査)と比べると、最も差のある年齢は11歳で、親の世代よりも1.4cm高い。(表8)

表8 座高の年齢別平均値 (単位：cm)

区 分			H26 (A)	年齢間の 座高差	H25 (B)	前年差 (A-B)	S59 親の世代(C)	差 (A-C)
男  子	幼稚園	5歳	62.1		62.0	0.1	62.7	△ 0.6
		小学校	6歳	64.8	2.7	64.9	△ 0.1	65.1
	7歳		67.3	2.5	67.5	△ 0.2	67.8	△ 0.5
	8歳		70.5	3.2	70.6	△ 0.1	69.8	0.7
	9歳		72.8	2.3	72.9	△ 0.1	72.4	0.4
	10歳		75.1	2.3	75.4	△ 0.3	74.4	0.7
	11歳		78.2	3.1	77.9	0.3	77.0	1.2
	中学校	12歳	81.9	<u>3.7</u>	82.1	△ 0.2	80.2	1.7
		13歳	85.4	3.5	85.3	0.1	83.7	1.7
		14歳	88.3	2.9	88.7	△ 0.4	87.0	1.3
	高等学校	15歳	90.8	2.5	90.3	0.5	89.5	1.3
		16歳	91.5	0.7	91.5	0.0	90.4	1.1
		17歳	91.7	0.2	91.6	0.1	91.0	0.7
	女  子	幼稚園	5歳	61.4		61.2	0.2	62.3
小学校			6歳	64.3	2.9	64.5	△ 0.2	64.5
		7歳	67.2	2.9	67.3	△ 0.1	67.3	△ 0.1
		8歳	69.9	2.7	70.1	△ 0.2	69.6	0.3
		9歳	72.9	3.0	72.4	0.5	72.2	0.7
		10歳	75.6	2.7	76.3	△ 0.7	75.3	0.3
		11歳	79.7	<u>4.1</u>	79.8	△ 0.1	78.3	1.4
中学校		12歳	82.6	2.9	82.8	△ 0.2	81.4	1.2
		13歳	84.2	1.6	84.0	0.2	83.3	0.9
		14歳	85.0	0.8	85.2	△ 0.2	84.4	0.6
高等学校		15歳	85.4	0.4	85.5	△ 0.1	84.9	0.5
		16歳	85.4	0.0	85.7	△ 0.3	84.9	0.5
		17歳	86.0	0.6	85.7	0.3	85.1	0.9

(注) 下線の部分は年齢間の差が最も大きい値を示す。



## 第2 健康状態

### 1 疾病・異常の被患率等別状況

疾病・異常の被患率等を階層別にみると、表9のとおりである。

幼稚園、小学校及び高等学校で被患率等が最も高いのは、むし歯で、幼稚園 50.0%、小学校 66.3%、高等学校 61.7%となっている。

中学校で被患率等が最も高いのは、裸眼視力 1.0 未満の者で、55.4%となっている。

表9 疾病・異常の被患率等

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校		
90%以上						
80%以上～90%未満						
70～80						
60～70		むし歯 66.3		むし歯 61.7 裸眼視力1.0未満の者 42.2		
40～60	むし歯 50.0		裸眼視力1.0未満の者 55.4 むし歯 49.4			
20～40		裸眼視力1.0未満の者 35.2				
10～20		鼻・副鼻腔疾患 13.3				
1～10	8～10		歯・口腔のその他の疾病・異常 9.5			
	6～8		鼻・副鼻腔疾患 7.5 歯垢の状態 6.0			
	4～6		歯列・咬合 5.8 耳疾患 4.9 歯垢の状態 4.6 ぜん息 4.3 口腔咽喉頭疾患・異常 4.0	歯列・咬合 4.6 歯垢の状態 4.4		
	2～4	その他の疾病・異常 3.7 眼の疾病・異常 3.5 歯列・咬合 3.2 ぜん息 2.7 アトピー性皮膚炎 2.0	栄養状態 3.5 アトピー性皮膚炎 3.5 心電図異常 3.1 眼の疾病・異常 2.9 歯肉の状態 2.6 その他の疾病・異常 2.4	その他の疾病・異常 3.7 歯・口腔のその他の疾病・異常 3.6 耳疾患 3.0 心電図異常 3.0 眼の疾病・異常 2.4 ぜん息 2.4 アトピー性皮膚炎 2.1	心電図異常 3.8 歯肉の状態 3.2	
	1～2	耳疾患 1.9 口腔咽喉頭疾患・異常 1.8 言語障害 1.1 歯・口腔のその他の疾病・異常 1.0		蛋白検出の者 1.3 顎関節 1.2	その他の疾病・異常 1.9 鼻・副鼻腔疾患 1.5 ぜん息 1.3 歯・口腔のその他の疾病・異常 1.0 アトピー性皮膚炎 1.0 蛋白検出の者 1.0	
	0.1～1	0.5～1	歯垢の状態 0.8	蛋白検出の者 0.9 その他の皮膚疾患 0.6 言語障害 0.5	口腔咽喉頭疾患・異常 0.9 栄養状態 0.9 せき柱・胸郭 0.8 心臓の疾病・異常 0.5	顎関節 0.7
		0.1～0.5	栄養状態 0.4 蛋白検出の者 0.4 その他の皮膚疾患 0.3 歯肉の状態 0.2	難聴 0.4 心臓の疾病・異常 0.3 顎関節 0.2 せき柱・胸郭 0.2 腎臓疾患 0.2 尿糖検出の者 0.1	その他の皮膚疾患 0.2 腎臓疾患 0.2 難聴 0.1 尿糖検出の者 0.1 言語障害 0.1	心臓の疾病・異常 0.4 眼の疾病・異常 0.2 難聴 0.2 口腔咽喉頭疾患・異常 0.2 栄養状態 0.2 その他の皮膚疾患 0.2 尿糖検出の者 0.2 せき柱・胸郭 0.1 結核 0.1 腎臓疾患 0.1
	0.1%未満		結核精密検査の対象者 0.0 寄生虫卵保有者 0.0	結核 0.0 結核精密検査の対象者 0.0	耳疾患 0.0 言語障害 0.0	

(注) 1 「眼の疾病・異常」とは、トラコーマ、流行性角結膜炎、麦粒腫(ものもらい)、眼炎、斜視、片目失明等である。

2 「耳疾患」とは、中耳炎、内耳炎、外耳炎、メニエール病、耳かいの欠損、耳垢栓塞等である。

3 「鼻・副鼻腔疾患」とは、慢性副鼻腔炎(蓄のう症)、慢性的症状の鼻炎、鼻ポリープ、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等である。

4 「歯・口腔のその他の疾病・異常の者」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常等である。

5 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

6 「その他の疾病・異常」とは、本調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病・異常(例えば、てんかん、貧血、川崎病等)である。

7 「結核対策委員会の要検討者」とは、結核に関する検診により結核対策委員会で精密検査の要否等の検討を要した者である。

8 「結核精密検査の対象者」とは、上記7の検討の結果、結核の精密検査を必要とされた者である。

## 2 主な疾病・異常の推移

主な疾病・異常の近年の推移は、表10のとおりである。

- (1) 裸眼視力1.0未満の者  
前年度との比較で見ると、小学校から高等学校まで減少している。  
全国との比較で見ると、小学校及び中学校で割合を上回っている。
- (2) 鼻・副鼻腔疾患  
前年度との比較で見ると、小学校及び中学校は減少しているが、高等学校では増加している。  
全国との比較で見ると、小学校で割合を上回っている。
- (3) むし歯  
前年度との比較で見ると、幼稚園から高等学校まで減少している。  
全国との比較で見ると、幼稚園から高等学校まで割合を上回っている。
- (4) ぜん息  
前年度との比較で見ると、幼稚園から高等学校まで増加している。  
全国との比較で見ると、幼稚園及び小学校で割合を上回っている。

表10 主な疾病・異常の推移

(単位：%)

区分		裸眼視力 1.0未満の 者	耳 疾 患	鼻・ 副 鼻 腔 疾 患	口 腔 咽 喉 頭 疾 患・ 異	む し 歯	心 電 図 異 常	蛋 白 検 出 の 者	寄 生 虫 卵 保 有 者	ぜん 息
幼 稚 園	H16	33.6	0.7	1.2	4.3	63.5	…	0.2	—	0.8
	20	X	2.9	1.7	1.7	62.4	…	0.3	—	1.1
	21	X	1.3	0.1	0.6	58.1	…	0.1	—	1.2
	22	X	4.3	1.9	0.8	57.4	…	0.1	—	1.1
	24	X	3.9	1.3	2.7	52.6	…	0.5	—	1.2
	25	X	7.0	3.6	0.4	51.6	…	0.4	0.4	1.8
	26	X	1.9	—	1.8	50.0	…	0.4	—	2.7
全国H26	26.5	2.3	3.1	1.7	38.5	…	0.7	0.1	1.9	
小 学 校	H16	28.9	3.1	5.4	1.8	77.6	1.6	0.3	—	2.1
	20	31.9	4.7	8.4	3.5	73.4	2.2	0.3	0.0	3.2
	21	32.3	6.3	12.0	2.6	70.7	2.0	0.5	0.0	3.3
	22	31.2	6.9	12.8	3.1	68.1	2.9	0.5	0.0	2.7
	24	34.8	4.5	9.4	1.7	67.5	2.1	0.4	—	6.0
	25	36.1	7.7	15.9	2.1	67.0	2.6	0.2	0.0	4.0
	26	35.2	4.9	13.3	4.0	66.3	3.1	0.9	0.0	4.3
全国H26	30.2	5.7	12.3	1.5	52.5	2.3	0.8	0.1	3.9	
中 学 校	H16	50.5	1.9	5.6	1.2	71.3	3.4	1.7	…	1.0
	20	55.8	1.9	4.2	3.0	64.1	3.5	1.1	…	2.1
	21	54.7	1.8	5.3	0.6	61.0	2.6	1.6	…	1.9
	22	59.6	4.8	9.8	0.3	61.3	2.8	1.3	…	3.1
	24	56.6	4.9	9.5	0.9	54.7	3.3	1.4	…	2.4
	25	59.2	2.3	8.1	1.8	56.8	3.5	1.2	…	1.8
	26	55.4	3.0	7.5	0.9	49.4	3.0	1.3	…	2.4
全国H26	53.0	4.0	11.2	0.7	42.4	3.3	3.0	…	3.0	
高 等 学 校	H16	56.8	0.1	3.5	0.8	80.5	3.2	0.7	…	0.3
	20	60.8	0.5	2.6	0.5	73.0	3.1	1.2	…	1.0
	21	70.7	0.5	4.5	0.5	72.5	3.2	1.3	…	1.0
	22	X	0.1	0.0	0.9	67.6	3.9	1.6	…	0.7
	24	X	0.1	1.9	0.4	62.9	3.1	1.2	…	1.3
	25	68.6	0.2	0.2	0.0	65.7	3.5	0.9	…	0.6
	26	42.2	0.0	1.5	0.2	61.7	3.8	1.0	…	1.3
全国H26	62.9	2.1	8.7	0.5	53.1	3.3	3.1	…	1.9	

- (注) 1 小数点以下第2位を四捨五入している。  
2 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。  
3 寄生虫卵保有者については、5歳から8歳のみ実施している。

### 3 裸眼視力 1.0 未満の者の推移

(1) 裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、表 11 のとおりである。

前年度との比較でみると、小学校で 0.9 ポイント、中学校で 3.8 ポイント減少している。

10 年前(平成 16 年度)との比較でみると、小学校で 6.3 ポイント、中学校で 4.9 ポイント増加している。

また、全国との比較でみると、小学校及び中学校で全国の割合を上回っている。

(2) 視力非矯正者(眼鏡やコンタクトレンズを使用していない者)と視力矯正者とに分けて調査したところ、視力非矯正者のうち、「裸眼視力 0.7 未満の者」(学校生活上問題となることが多い視力の状態の者)の割合は、小学校で 13.1%、中学校で 17.7%となっている。(表 12)

表11 裸眼視力1.0未満の者の推移

(単位：%)

区 分		H16	H20	H21	H22	H24	H25 (A)	H26 (B)	前年差 (B-A)	全国H26 (C)	差 (B-C)
幼稚園	計	33.6	X	X	X	X	X	X	-	26.5	-
	1.0未満 0.7以上	22.9	X	X	X	X	X	X	-	17.6	-
	0.7未満 0.3以上	10.5	X	X	X	X	X	X	-	8.0	-
	0.3未満	0.2	X	X	X	X	X	X	-	1.0	-
小学校	計	28.9	31.9	32.3	31.2	34.8	36.1	35.2	△ 0.9	30.2	5.0
	1.0未満 0.7以上	12.9	12.6	12.6	11.3	12.8	14.0	13.7	△ 0.3	10.7	3.0
	0.7未満 0.3以上	10.7	12.1	11.8	12.3	12.6	12.9	12.6	△ 0.3	11.3	1.3
	0.3未満	5.4	7.1	7.8	7.6	9.4	9.2	8.8	△ 0.4	8.1	0.7
中学校	計	50.5	55.8	54.7	59.6	56.6	59.2	55.4	△ 3.8	53.0	2.4
	1.0未満 0.7以上	12.9	11.7	11.6	12.9	10.1	10.7	12.4	1.7	11.3	1.1
	0.7未満 0.3以上	17.5	19.5	15.2	18.8	16.5	18.1	18.4	0.3	16.8	1.6
	0.3未満	20.2	24.6	27.9	27.9	30.0	30.4	24.6	△ 5.8	25.0	△ 0.4
高等学校	計	56.8	60.8	70.7	X	X	68.6	42.2	△ 26.4	62.9	△ 20.7
	1.0未満 0.7以上	14.8	X	8.7	X	X	X	14.7	-	11.5	3.2
	0.7未満 0.3以上	20.9	X	15.5	X	X	X	18.5	-	15.5	3.0
	0.3未満	21.1	X	46.5	X	X	X	9.0	-	35.8	△ 26.8

(注) 1 小数点以下第2位四捨五入により、計と内訳が一致しない場合がある。

(注) 2 低い方の視力の記載により計上している。

図9 裸眼視力1.0未満の者の推移

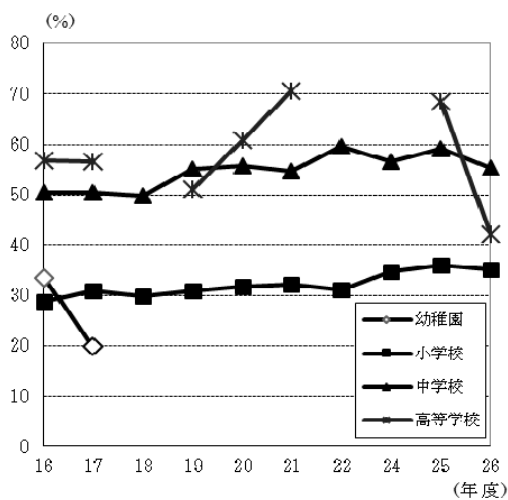


図10 学校種別裸眼視力1.0未満の者の割合

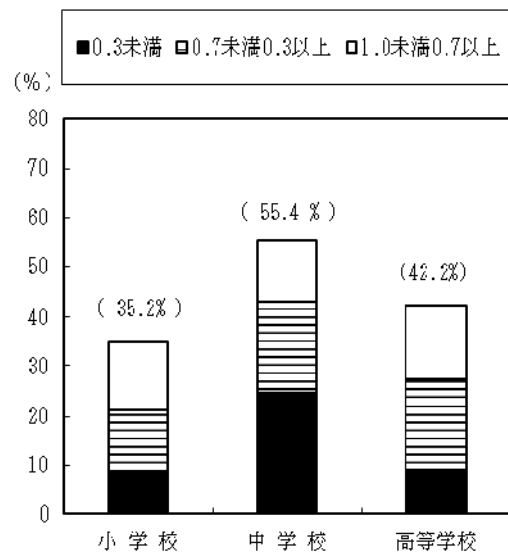


表 1 2 学校種別 視力非矯正者と視力矯正者の割合

区分		視力非矯正者					視力矯正者				
		1.0以上	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満		1.0以上	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	
幼稚園	H 2 6	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	全 国	98.6	73.2	17.2	7.4	0.8	1.5	0.3	0.4	0.6	0.2
小学校	H 2 6	89.7	63.9	12.7	9.6	3.5	10.2	0.9	1.0	3.0	5.3
	全 国	91.4	69.2	10.0	8.9	3.3	8.6	0.6	0.8	2.4	4.8
中学校	H 2 6	72.2	43.5	11.0	12.1	5.6	27.8	1.2	1.3	6.3	19.0
	全 国	72.5	46.2	9.8	10.9	5.6	27.6	0.8	1.5	5.9	19.4
高等学校	H 2 6	100.0	57.8	14.7	18.5	9.0	-	-	-	-	-
	全 国	62.1	35.5	9.7	9.9	7.0	37.9	1.7	1.8	5.6	28.8

(注) 1 小数点以下第2位四捨五入により、計と内訳が一致しない場合がある。

(注) 2 低い方の視力の記載により計上している。

#### 4 鼻・副鼻腔疾患の推移

鼻・副鼻腔疾患(蓄のう症、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等)の者の割合は、小学校で13.3%、中学校で7.5%、高等学校では1.5%となっており、前年度との比較でみると小学校及び中学校で減少している。

また、全国との比較でみると、中学校及び高等学校で割合を下回っている。(表 13)

表13 鼻・副鼻腔疾患率の推移

(単位：%)

区 分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成 16 年度	1.2	5.4	5.6	3.5
平成 20 年度	1.7	8.4	4.2	2.6
平成 21 年度	0.1	12.0	5.3	4.5
平成 22 年度	1.9	12.8	9.8	0.0
平成 24 年度	1.3	9.4	9.5	1.9
平成 25 年度 (A)	3.6	15.9	8.1	0.2
平成 26 年度 (B)	-	13.3	7.5	1.5
増 減 (B-A)	-	△ 2.6	△ 0.6	1.3
平成26年度全国平均(C)	3.1	12.3	11.2	8.7
比 較 (B-C)	-	1.0	△ 3.7	△ 7.2

(注) 差の欄については、小数点以下第2位四捨五入により、掲載上の計算値と一致しない箇所がある。

#### 5 むし歯の推移

むし歯を「処置完了者」と「未処置歯のある者」に区分すると表 14 のとおりである。

むし歯の被患率(治療済みの者を含む。)は、幼稚園で50.0%、小学校で66.3%、中学校で49.4%、高等学校では61.7%となっている。30年前(昭和59年度)はすべての区分で9割を超え、20年前(平成6年度)も30年前と同程度の水準であったが、近年は低下傾向にある。

また、全国との比較でみると、すべての学校(園)で割合を上回っている。

表14 むし歯被患率の推移

区 分		S59	H6	H16	H20	H21	H22	H24	H25 (A)	H26 (B)	差 (B-A)	全国H26 (C)	差 (B-C)
幼稚園	計	92.9	81.0	63.5	62.4	58.1	57.4	52.6	51.6	50.0	△ 1.6	38.5	11.5
	処置完了者	18.5	23.3	16.7	25.7	22.2	21.0	14.9	20.6	16.8	△ 3.8	15.7	1.1
	未処置歯のある者	74.4	57.6	46.9	36.7	35.9	36.4	37.7	31.1	33.2	2.1	22.8	10.4
小学校	計	93.8	88.2	77.6	73.4	70.7	68.1	67.5	67.0	66.3	△ 0.7	52.5	13.8
	処置完了者	26.6	38.4	36.1	34.1	31.4	32.5	32.6	32.4	31.8	△ 0.6	26.2	5.6
	未処置歯のある者	67.2	49.8	41.5	39.3	39.2	35.6	35.0	34.6	34.5	△ 0.1	26.3	8.2
中学校	計	92.3	90.5	71.3	64.1	61.0	61.3	54.7	56.8	49.4	△ 7.4	42.4	7.0
	処置完了者	31.7	39.9	38.3	35.3	29.2	31.1	26.4	30.5	25.3	△ 5.2	23.8	1.5
	未処置歯のある者	60.6	50.6	33.0	28.8	31.9	30.2	28.3	26.2	24.1	△ 2.1	18.5	5.6
高等学校	計	94.3	93.0	80.5	73.0	72.5	67.6	62.9	65.7	61.7	△ 4.0	53.1	8.6
	処置完了者	33.8	47.0	46.3	42.3	32.8	37.5	34.8	31.5	35.9	4.4	30.5	5.4
	未処置歯のある者	60.5	46.0	34.3	30.6	39.7	30.1	28.0	34.2	25.8	△ 8.4	22.6	3.2

(注) 差の欄については、小数点以下第2位四捨五入により、掲載上の計算値と一致しない箇所がある。

図11 むし歯被患率の推移グラフ

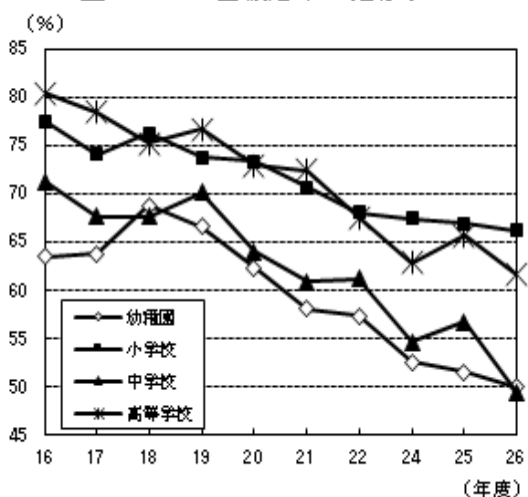
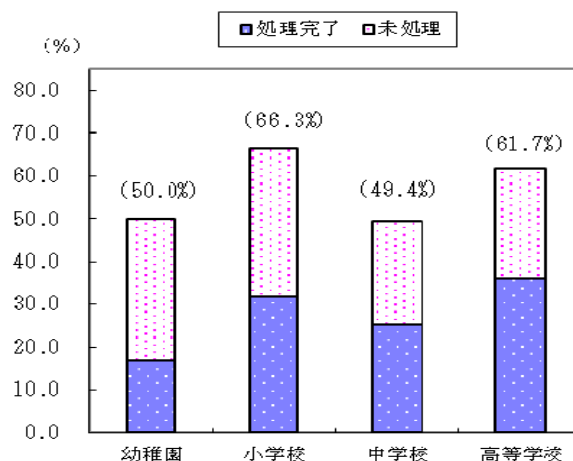


図12 むし歯の処理状況



6 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等の推移

12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等(喪失歯及びむし歯数)は、表15のとおりである。

喪失歯数には変化はないが、むし歯数は1.2本で、昭和59年に調査を開始して以来、減少傾向にあり10年前(平成16年)と比較すると0.9本減少している。

また、全国との比較でみると割合を上回っている。(表15)

表15 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等の推移

区 分		H16	H20	H21	H22	H24	H25 (A)	H26 (B)	前年差 (B-A)	全国H26 (C)	差 (B-C)
合 計		2.1	1.8	1.8	1.7	1.5	1.5	1.3	△ 0.2	1.0	0.3
喪 失 歯 数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
むし歯	小 計	2.1	1.8	1.8	1.7	1.5	1.5	1.2	△ 0.2	1.0	0.2
	処置歯数	1.4	1.1	1.1	1.0	0.8	0.9	0.8	△ 0.1	0.6	0.2
	未処置歯数	0.6	0.7	0.7	0.6	0.7	0.5	0.5	0.0	0.4	0.1

(単位：本)

## 7 心電図異常の推移(6歳、12歳及び15歳のみ)

心電図異常の者の割合は、小学校で3.1%、中学校で3.0%、高等学校で3.8%となっており、中学校を除き前年度より増加している。

また、全国との比較でみると中学校を除き割合を上回っている。(表16)

**表16 心電図異常率の推移** (単位：%)

区 分	6歳 (小学校1年)	12歳 (中学校1年)	15歳 (高等学校1年)
平成16年度	1.6	3.4	3.2
平成20年度	2.2	3.5	3.1
平成21年度	2.0	2.6	3.2
平成22年度	2.9	2.8	3.9
平成24年度	2.1	3.3	3.1
平成25年度(A)	2.6	3.5	3.5
平成26年度(B)	3.1	3.0	3.8
増減(B-A)	0.5	△0.5	0.3
平成26年度全国平均(C)	2.3	3.3	3.3
比較(B-C)	0.8	△0.3	0.6

## 8 ぜん息の推移

ぜん息の者の割合は、幼稚園2.7%、小学校4.3%、中学校2.4%、高等学校1.3%となっており、すべての学校(園)で前年度より増加している。

また、全国との比較でみると幼稚園、小学校で割合を上回っている。(表17)

**表17 ぜん息被患率の推移** (単位：%)

区 分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成16年度	0.8	2.1	1.0	0.3
平成20年度	1.1	3.2	2.1	1.0
平成21年度	1.2	3.3	1.9	1.0
平成22年度	1.1	2.7	3.1	0.7
平成24年度	1.2	6.0	2.4	1.3
平成25年度(A)	1.8	4.0	1.8	0.6
平成26年度(B)	2.7	4.3	2.4	1.3
増減(B-A)	0.9	0.3	0.6	0.7
平成26年度全国平均(C)	1.9	3.9	3.0	1.9
比較(B-C)	0.8	0.4	△0.6	△0.6

### 第3 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

発育状態調査結果から算出した肥満度に基づく、肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率を年齢別にみると、表18、表19及び図13から図16のとおりである。

#### 1 肥満傾向児

男子の肥満傾向児の出現率は、5歳、6歳、9歳、12歳、13歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度より増加しており、9歳が17.34%で最も高くなっている。

女子は、5歳、7歳から9歳、11歳から13歳の各年齢で前年度より増加しており、13歳が13.78%で最も高くなっている。

全国との比較でみると、男子・女子ともに全ての年齢で全国の割合を上回っている。  
(表18、図13、図14)

表18 年齢別 肥満傾向児の出現率

(単位：%)

区 分	本県						全国		本県と全国との差		
	男			女			男	女	男	女	
	H26 (A)	H25 (B)	差 (A-B)	H26 (C)	H25 (D)	差 (C-D)	H26 (E)	H26 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	5.81	4.93	0.88	5.71	4.38	1.33	2.55	2.69	3.26	3.02
	6歳	8.62	8.12	0.50	7.07	7.12	△ 0.05	4.34	4.15	4.28	2.92
小学校	7歳	9.00	9.73	△ 0.73	10.29	7.85	2.44	5.45	5.41	3.55	4.88
	8歳	10.86	13.90	△ 3.04	10.42	9.41	1.01	7.57	6.24	3.29	4.18
	9歳	17.34	16.13	1.21	12.68	9.27	3.41	8.89	7.36	8.45	5.32
	10歳	14.85	21.27	△ 6.42	9.39	11.85	△ 2.46	9.72	8.40	5.13	0.99
	11歳	15.12	15.57	△ 0.45	13.71	12.40	1.31	10.28	8.56	4.84	5.15
中学校	12歳	15.76	14.83	0.93	13.12	12.48	0.64	10.72	7.97	5.04	5.15
	13歳	15.02	14.54	0.48	13.78	12.01	1.77	8.94	7.89	6.08	5.89
	14歳	9.83	12.65	△ 2.82	10.32	11.24	△ 0.92	8.16	7.68	1.67	2.64
高等学校	15歳	17.26	18.30	△ 1.04	9.71	12.51	△ 2.80	11.42	8.35	5.84	1.36
	16歳	14.31	11.68	2.63	10.55	13.19	△ 2.64	10.16	7.44	4.15	3.11
	17歳	13.41	13.10	0.31	12.81	15.16	△ 2.35	10.69	8.25	2.72	4.56

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。  
肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100%

図13 肥満傾向児の出現率グラフ(男子)

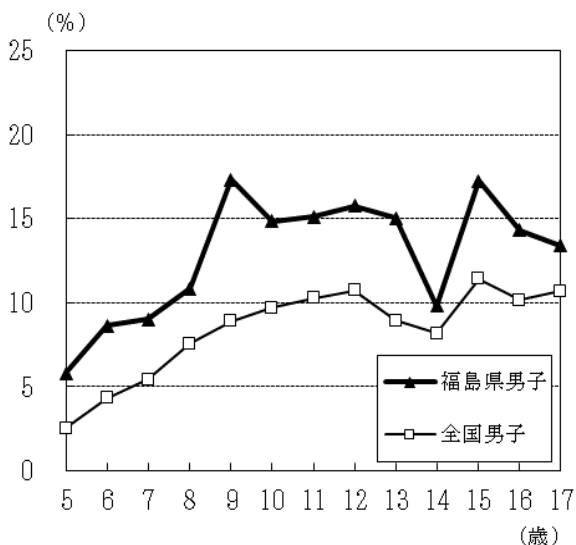
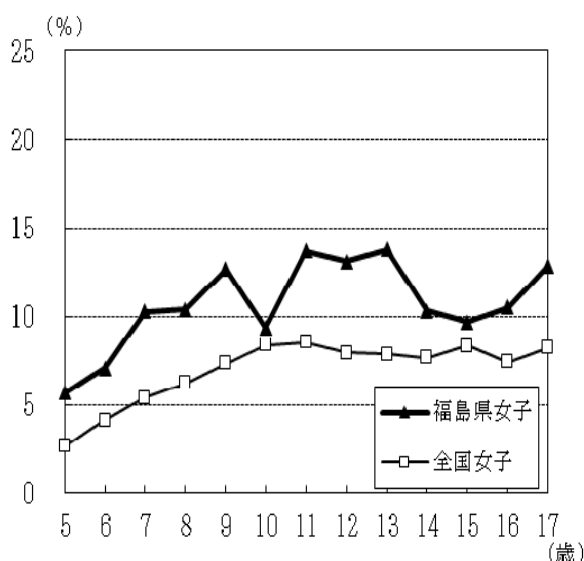


図14 肥満傾向児の出現率グラフ(女子)



## 2 痩身傾向児

男子の痩身傾向児の出現率は、7歳、8歳、10歳から12歳、15歳及び17歳で前年度より増加しており、12歳が3.05%で最も高くなっている。

女子は、6歳、8歳、9歳、11歳、15歳及び16歳の各年齢で前年度より増加しており、11歳が3.39%で最も高くなっている。

全国との比較でみると、男子は、12歳及び17歳の各年齢で、女子は8歳、11歳、15歳及び16歳で、全国の割合を上回っている。(表19、図15、図16)

表19 年齢別 痩身傾向児の出現率

(単位：%)

区 分	本県						全国		本県と全国との差		
	男			女			男	女	男	女	
	H26 (A)	H25 (B)	前年差 (A-B)	H26 (C)	H25 (D)	前年差 (C-D)	H26 (E)	H26 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	0.33	-	-	0.16	0.31	△ 0.15	0.34	0.39	△ 0.01	△ 0.23
小学校	6歳	-	0.82	-	0.61	0.50	0.11	0.41	0.64	-	△ 0.03
	7歳	0.24	0.10	0.14	0.16	0.83	△ 0.67	0.50	0.75	△ 0.26	△ 0.59
	8歳	0.92	0.73	0.19	1.35	0.46	0.89	0.98	1.10	△ 0.06	0.25
	9歳	0.96	1.50	△ 0.54	1.28	0.91	0.37	1.79	2.06	△ 0.83	△ 0.78
	10歳	2.28	0.89	1.39	2.37	2.86	△ 0.49	2.85	2.50	△ 0.57	△ 0.13
中学校	11歳	2.72	2.68	0.04	3.39	2.04	1.35	3.24	2.86	△ 0.52	0.53
	12歳	3.05	2.61	0.44	2.63	3.02	△ 0.39	2.77	4.17	0.28	△ 1.54
	13歳	1.74	1.74	0.00	2.88	3.46	△ 0.58	1.75	3.52	△ 0.01	△ 0.64
高等学校	14歳	1.36	1.85	△ 0.49	2.07	2.51	△ 0.44	1.79	2.52	△ 0.43	△ 0.45
	15歳	2.08	1.26	0.82	2.88	1.05	1.83	2.65	2.53	△ 0.57	0.35
	16歳	0.96	1.11	△ 0.15	2.28	0.87	1.41	2.19	1.85	△ 1.23	0.43
	17歳	2.77	1.66	1.11	1.28	1.38	△ 0.10	1.99	1.69	0.78	△ 0.41

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。

図15 痩身傾向児の出現率グラフ(男子)

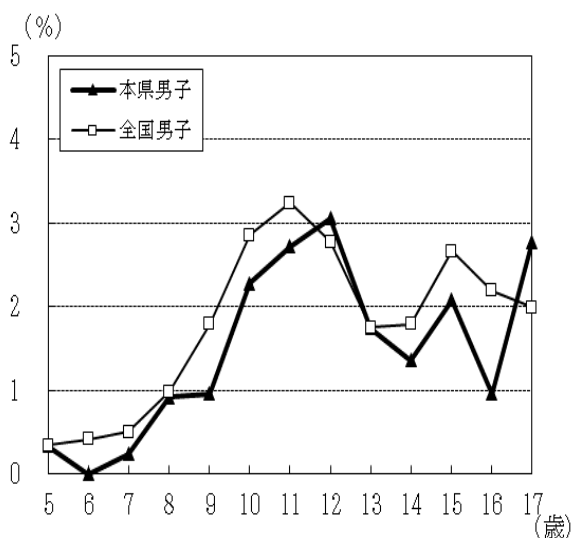


図16 痩身傾向児の出現率グラフ(女子)

